

送付文

京都国際ダンスワークショップフェスティバルに対しての質問状について

2025年8月17日記

私たち(遠藤リョウノスケ、北方こだち、帰山玲子、益田さち)は「Culture Against Apartheid」に署名した関西の文化労働者たち」という連名で、2025年5月27日にメールにて京都芸術センターおよび一般社団法人ダンス&エンヴァイロメントに対して以下の質問状を送付いたしました。

それに対し、2025年7月28日に双方のホームページにて回答および声明文が公開されました。しかしそこには質問状全体の記載はなく、番号付きの質問箇所のみが切り取られた形で掲載されています。

質問状を提出した側としましては、質問箇所だけではなく、質問の意図と背景が書かれた前提の文章についても広く周知されてほしいと考えております。

声明文発表後にその旨を京都芸術センターにはお伝えし、全文の掲載をお願いいたしましたが、「公開質問状」の形式をとっていないためその対応はできかねるが、提出者の公開したリンクの掲載は可能である旨お返事をいただき、このようなリンクページを作成しております。

以下、質問と要求文全文です。

<送付内容ここから>

京都芸術センター 御中

一般社団法人 ダンスアンドエンヴァイロメント 御中

京都国際ダンスワークショップフェスティバルでニア・デ・ヴォルフ氏が講師を担当することについて、文化に携わるものとして、あるいは市民として、質問と要求があります。

詳細な質問については後述いたしますが、今回疑問を抱いている点は、現状のパレスチナ情勢下でイスラエルに関わるアーティストを招聘するにあたり、フェスティバル主催者や当該アーティストの姿勢を明らかにする必要があるのではないか、ということです。ニア氏はプロフィールに兵役の経歴を記載公表しており、またアメリカ・イスラエル文化財団の登録アーティスト(※1)でもあります。特に反証がない限り、イスラエルによる占領や虐殺、パレスチナ人の権利剥奪を承認し、アートを通じたそれらの隠蔽に寄与していると考えられます。

イスラエル現政権のネタニヤフ首相は、すでに国際刑事裁判所(ICC)から戦争犯罪人として逮捕状がでており(※2)、また国際司法裁判所(ICJ)からイスラエルの占領政策は不法であると判断がでています(※3)。昨年国連からも1年以内のイスラエルの入植活動の停止と撤退を要求する決議(※4)が採択されており、日本はこれに賛成しています。

今年1月に出た第一段階目の停戦合意についても、事実上の停戦ではなくこの停戦合意期間6週間の間にも爆撃が続き、子どもを含むパレスチナ人の命が奪われました。その後3月からイスラエルは侵攻を再開し、今もなおパレスチナ人に対する暴力が続いています。

明白な不均衡に抵抗するためにパレスチナ人が呼びかけるBDS運動の中に、PACBI(パクビ/Palestinian Campaign for the Academic and Cultural Boycott of Israel)(※5)というものがあります。その名の通り、学術・文化機関のボイコットです。

PACBIは、個人のアイデンティティ(国籍、人種、性別、宗教など)や意見に基づくボイコットを原則的に否定しますが、ある個人がイスラエル国家やそれに加担するイスラエルの機関を代表していたり、イスラエルのリブランディング事業に参加するよう委託／雇用されていたりする場合、その個人の活動はBDS運動が求める組織的ボイコットの対象になります。

ニア氏については現状不明な点が多く、PACBIに照らしてボイコットが必要であるかはわかりません。ただ、ニア氏が登録されているアメリカ・イスラエル文化財団については、支援を受けたプロジェクトがボイコットの対象となり得ます。また、今回の招聘にあたり、イスラエル関係機関からの支援、援助がある場合には直ちにボイコットの対象となります。

イスラエルが文化を暴力の正当化や隠蔽、国のイメージアップに利用してきたことは、イスラエル外務省事務次官の「我々は文化とプロパガンダを区別するつもりはない。文化は第一級のプロパガンダ手段である。(※6)」という発言の通りであり、ボイコットによって圧力をかける意義は明確です。パレスチナ人に対する不条理な暴力が悪化の一途を辿る今、暴力それ自体と、文化による暴力の隠蔽を決して容認しないという明確なメッセージを出すという意味で、日本の文化従事者たちがPACBIに照らしてボイコットを呼びかけ実行することは非常に重要です。

「京都の暑い夏」は日本全国そして海外からも参加者が集まり、ダンサーがスキルを学ぶだけでなく、ダンスを通じて世界や社会とつながることができる公共性の高いイベントです。そのため、そこには社会的な責任も伴います。ダンスの世界は、社会の構造や世界情勢から切り離されてはおらず、ダンサーはパレスチナ問題と無関係ではありません。ダンスの現場からも、社会や世界に働きかけるべきではないでしょうか。

これらの前提を踏まえた上で、以下の3点についてご質問致します。

1. 昨今のパレスチナ情勢の最中、イスラエルに関わるアーティストを招聘する理由を教えてください。
2. ニア氏を今回招聘するにあたり、イスラエル関係機関からの支援、援助はありますか。
3. ニア氏がプロフィールに、イスラエル軍に従軍していた経歴を記載している理由を教えてください。

そして、以上の質問にお答えいただいた上で、以下にある三つの項目の実行を、本イベントの主催者に要求します。

1. 質問1の回答の公表
2. パレスチナ人の生存権利がイスラエルによって一方的に侵害されていることに対する主催者の声明の公表

3. 質問2において「ある」の場合 (PACBIにおけるボイコット対象の場合)

a. ニア氏招聘のキャンセル

「ない」の場合

b. ニア氏のパレスチナ情勢に対する立場と声明の公表

以上が、質問と要求です。質問に対する回答は2025年6月4日(水)までに(メールアドレス)宛に送信して頂きますようお願い致します。

要求につきましても、速やかに実行して頂ければ幸いです。

Culture Against Apartheidに署名した関西の文化労働者たち

(遠藤リョウノスケ、北方こだち、帰山玲子、益田さち)

注釈

※1 America-Israel Cultural Foundation: Nir De Volff

<https://aicf.org/artist/nir-de-volff/>

※2 Situation in the State of Palestine: ICC Pre-Trial Chamber I rejects the State of Israel's challenges to jurisdiction and issues warrants of arrest for Benjamin Netanyahu and Yoav Gallant

<https://www.icc-cpi.int/news/situation-state-palestine-icc-pre-trial-chamber-i-rejects-state-israels-challenges>

※3 イスラエルによるパレスチナ占領政策は国際法違反、国際司法裁判所の勧告を「歴史的」と専門家らが評価[ヒューマンライツ大阪]

<https://www.hurights.or.jp/archives/newsinbrief-ja/section1/2024/08/730.html#:~:text=2024%E5%B9%B47%E6%9C%8819,%E3%81%82%E3%82%8B%E3%81%A8%E5%8B%A7%E5%91%8A%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F%E3%80%82>

※4 国連総会は9月18日、国際司法裁判所が7月に出した勧告的意見を踏まえ、イスラエルに12カ月以内にパレスチナ地域から撤退するよう求める決議を採択した。[アムネスティインターナショナル]

https://www.amnesty.or.jp/news/2024/1003_10463.html

※5 PACBI

日本語版

<https://note.com/bdsjapan/n/n2456e78e9cb4>

原文

<https://bdsmovement.net/pacbi>

※6 About Face: Who best explains the case for Israel: an expert on the separation fence, or a rap group? A Foreign Ministry plan that aims to change the country's advocacy efforts is proving controversial.

<https://www.haaretz.com/2005-09-20/ty-article/about-face/0000017f-f7e7-d318-afff-f7e786c70000>

<送付内容ここまで>

—

<京都芸術センターと一般社団法人ダンス & エンヴァイロメントからの回答・声明文>

京都芸術センター

<https://www.kac.or.jp/news/20250726/>

京都国際ダンスワークショップフェスティバル特設サイト

<https://hotsummer2025.studio.site/message>

—